福岡県高教組情報　第7号

2023年11月18日発行(通算132号)

高教組HPへ

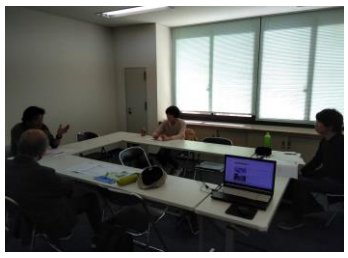
福岡県高等学校教職員組合　清水　雅数
福岡市東区馬出4-12-22　福岡県教育会館2F
電話 092-631-4631　FAX 092-631-4662
メール　fukko@fhtu.com
組合員　全員配布

第73次教育研究活動福岡県集会特集

第73次教育研究福岡県集会を10月29日（日）に福岡県教育会館等を会場に開催しました。初めての日曜日１日開催となりましたが、県内の各職場から、延べ126名の参加がありました。37本のリポートをもとに15分科会で活発な論議や情報交換がなされました。参加者からは「分科会で各校の状況がわかったし、自分の悩みに共感してもらって、前進することができた。」などの感想が寄せられました。今回は各分科会の論議の様子を共同研究者や参加者の感想をもとに共有したいと思います。

第1分科会　日本語･書道

（参加者）久しぶりに教科別教研で自分の教科である日本語・書道の分科会に参加した。長い間、修学支援を担当して、その仕事や人権教育の仕事に自分の教育活動のウェイトがあって、教科のことは疎かにしてきた。加えて近年は、「ＩＣＴ」だの「観点別評価」だのいったことで消耗させられるので教科指導のことを考えるのを敬遠していた。今日は久しぶりに教科として大切にしたいことが論議できて刺激を受けた。とりくんでいく元気をもらった。



（共同研究者）数十年ぶりの県教研でした。ごく少数の参加者は少数精鋭とも言うべきで、予想を上回る濃密な時間となりました。三本のレポートは内容、方向性がはっきりしており、日頃の教育実践の充実ぶりを窺い知ることができました。三時間近くの会話を録音して是非とも現場の先生方へ（だけでなく生徒さんにも）聞いていただきたいと思ったものです。この輪を未加入の先生方へも広げてください。

第2分科会　外国語

（参加者）レポートは残念ながらなかったのですが、興味のない子どもたちに「勉強した」という実感を持たせることが大事だと学びました。例えば、一時間目は本文を写し、二時間目は辞書で単語を調べ、三時間目は日本語訳をさせたりして、それを発表させていく。できたら褒めて喜ばせたりする。それから、授業をする人が楽しそうにすることが大事だとも学びました。今後、実践していこうと思いました。

（共同研究者）それぞれの先生方の苦労や体験談を聞かせていただき、大変参考になりました。現場の英語教師の未来を案じています。どうか体に気を付けて定年退職の日を迎えられることを祈っております。

第3分科会　社会･福祉･商業

（参加者）「秋月ルネサンス塾」参加のレポートでは、郷土史を限られた資料からどのように教材化するのか、を中心に議論が進んだ。地域おこしの面からだけではなく、多角的視点からの教材化の大切さを再確認した。また、生徒のベトナム研修のレポートは、現在のベトナムの状況を、米国・中国・日本に対するベトナム人の意識など現地に行かなければわからない情報を中心に聞くことができた。どちらも現地を見ることの重要性を再確認した研修であった。

第4分科会　数学･情報

（参加者）大きく三本の柱で議論になった。一本目は数学の基本的計算が未定着だった生徒とのかかわりを通して生育歴や本人の特性の把握が大切だという報告だった。小中との連携や入試への話題にも触れて現状の共有が図られた。　二本目は数学の学習指導要領の改訂と教科書の記述方法についての議論が中心となった。特に数学ＡとＢについて各分会での状況について情報交換ができた。　三本目は、カッコ（　）の効果についての実践発表をもとに議論が進んだ。「代入」を表す意味に注目した興味深い話が多く出された。今回、数学的な内容だけでなく、様々な内容にわたり議論ができた。今後の数学の授業にフィードバックしていきたい。

（共同研究者）日頃接している生徒とは異なる生徒の実態の話を聞くことができて、大変参考になりました。進学を目指す生徒にもそうでない生徒にも共通な問題がある事に気づきました。先生方の生徒に対して理解させようという熱意が伝わってくるような議論ができたと思います。もっとこの様な論議が広がる事が大切であるし、続ける事も大切だと感じました。数学を教えるだけではなくその生徒を見つめる姿勢が大切であるとも感じました。

第5分科会　理科･工業･農業･水産

（参加者）六本のレポートが集まり、それぞれの視点からの報告・問題提起がされ参加者で協議がなされた。多くのヒントを頂いた。　工業からは課題研究での内燃機関の性能試験の報告。理科からは地学基礎のとりくみからＡＬＰＳ処理水の問題へと展開させながらの報告。農業から植物の分類の難しさの報告。があった。新しい知識との出会いへの感動を起こす必要を強く感じた学びの場となった。

第6分科会　家庭

（参加者）三年ぶりに復活した「家庭科」の分科会でした。参加者は５名。普通科、一人勤務、特別支援学校、専門高校、非常勤と多様な職場の集まりでした。各学校それぞれが抱えている悩みや課題を自由に発言しあえる有意義な時間を持つことができました。食物検定に合格しても、芋の皮が上手にむけない生徒がいることにショックを受けました。私たちが「家庭科」で生徒たちにつけたい力をしっかりと考え直していきたいと思います。

第8分科会　障害児教育Ⅰ

（参加者）現在私は通級指導員として普通高校に勤務しているが、障害児教育のことを学びたいと思い参加した。三本のレポート発表があり、どれも興味深いものだった。「子どもの心に寄り添った教育の実践」と「ＩＣＴ教育のとりくみについて」が討議の柱となり、障害を持った子どもが社会に出た後のことも考えていかないといけないという話があった。インクルーシブ教育を推進するためにも教員は学びをさらに深める必要があると感じた。

（共同研究者）築いた人間関係を保つために「秘密」を隠す。そんな人間が殻を破り「障害」者と健聴者との架け橋になろうと努力する。大学に入ってからは、そのことを周りに伝え理解を求める。それを支え続ける人がいる。連帯に拍手。

デジタル教科書は「個別の最適な手段」という提言。人間臭い実践に会場が沸いた。

学校では明るく声が出ていた生徒が施設での暮らしを経て十数年後、無表情で言葉を発しない人に。教員や学校は何ができるのか。

第9分科会　健康･看護･保健体育

（参加者）2本のレポートを基に討議が進みました。「うつる」病気を考えるときに自分の中に不安や差別感情があることを自覚すること。養護をどう提供してきたか、していくか。考えることは沢山ありますが、一緒に考えて感じたことを出し合える場所がある安心感を改めて感じることのできる時間でした。

（共同研究者）３年半に及んだ新型コロナウイルス感染症による影響の中で、感染症対策・子ども達の心のケア、そして制限がある中での組合活動と、現場の養護教諭の頑張りを再確認した分科会でした。

中でも、国や県からの求められる感染症対策に翻弄されながらも、目の前の子ども達に本当の健康権の保障を出来ていたのかという反省を出し合えるのは養護教員部の強みだと思います。今回のコロナ禍で感じた疑問や反省点を出し合い、総括して、今後の起こるであろう未知の感染症に備えたいと感じました。特に、正しい情報収集のやり方・感染症対策の基本である自己免疫力の強化についても子ども達に知らせていく工夫を期待いたします。

第10分科会　図書館･総合教育

（参加者）レポートの発表をうかがって、廃棄の基準、調べ学習や探求の対応など、今どうすればよいかわからなかった問題に参考になった。また他校の先生方のとりくみをうかがえて、今後の指標ができて、とてもよかった。引越し移転はいつ起こるかわからないため資料を保管したい。引継ぎを要領よくすすめるためマニュアル化すると、後々便利だと思った。他校の業務の様子が見えてとても参考になった。高校図書館業務が初めてのため勉強になった。

第１１分科会　人権教育

（参加者）第１１分科会では、三つのレポートが報告された。一つ目のレポートでは、特別支援学校の生徒を事例に多様な進路を保障することとは何かを協議した。二つ目のレポートでは、朝鮮半島をルーツに持つ生徒と向き合った事例、三つ目のレポートでは、高校生友の会の生徒と向き合った実践について協議した。どのレポートも一人の生徒と十分に対話して課題や困り感の解消に向けて熱心な教育活動が行われており、私は心を打たれた。

（共同研究者としてご参加いただく予定だった、OBが直前に体調を崩されました。そのため、当日参加がかないませんでした。心配しておりましたが、その後回復され非常勤講師として現場に戻っておられます。ご報告申し上げます。）

第12分科会　両性の自立と平等

（参加者）初めて参加させていただきました、戸惑いましたが、和やかな雰囲気でしたので素直に自分の考えを伝えられたことで有意義な勉強になりました。中でも高校生のジェンダー感覚を問うの資料では、高校生のリアルな男女平等を意識した分析結果であったことに驚きました。対等は考えが健全な関係でいられることであり、また平等だからこそのきちんとした同意が重要であること、同意の取り方など、先輩の先生方に指導いただき、収穫の多いためになる研修会でした。

（共同研究者）「男性のセクハラは問題になるのに女性のセクハラが軽くみられるのはなぜ？」「女性におごりたがる男性の心理は？」など、身近なところで感じている疑問を議論した。刷り込まれてきたジェンダーバイアスに気付き、変えていくことは難しい。だからこそ教職員の意識改革のための研修や、報告された「子どもたちとアンコンシャスバイアスについて議論する」実践、「性の自己決定・対等な人間関係」を学ぶ実践が必要だと再認識した。

第13分科会　平和･環境･防災

（参加者）「わが町で平和を考える」という"北九州市平和資料室TICO PLACE"の紹介を中心とするレポートと、「原発に頼るのはやめましょう」という久留米の反原発市民運動のレポートを受けて、質疑応答や討議の柱に基づく討論や意見交流が行われました。10名の参加でしたが、私自身久々の県教研参加で大いに刺激を受けることができました。せっかく先輩たちが繋いでくれてきた教研活動を若年層にも広げていくことが課題だと感じました。

（共同研究者）平和、環境、防災をかかげる分科会であるが、話題提供は、地域の平和を考える活動であった。北九州平和資料室で展示された資料は、コンパクトながら興味深い貴重なものがあった。民間の資料館は、高齢化でその独自性を保つことは厳しいであろう。かつて水不足で福岡市の不足する水をどう確保するかで苦労した状況は、水余りと洪水問題で苦労するように変化している。エネルギーの中心も化石から太陽光風力とどう出来るか考えどころだ。

第14分科会　共生･共学

（参加者）高等学校の通級指導については、連携の必要性について考えさせられた。通常通っている学級、学校の教員との連携では、通級で行っていることを通常の学級で実践できるようにできればいいなと思います。

共生・共学についてたくさんのお話の中で、児童・生徒の経験が重要だと感じました。特別支援学校に通う子どもが失敗も成功も多く経験することが大切だと思いました。

（共同研究者）この数年間「インクルーシブ教育」という文言を検討し、「共生共学」という分科会が誕生した。「課題」のある生徒が高校に入り、そのクラスがどうなっていったか。そうしたとりくみを発表する場が整ったのだ。とはいえ、高校での通級指導員の仕事が「つけたし」のようになっている現実もある。高校における定員内不合格者の数は全国で2番目。背景にあるのは教員の理解だと思う。県教研がテコとなり高校での共学が進展することを期待する。

第15分科会　働く青年の教育

（参加者）今まで県教研の分科会では、毎回「平和教育」に参加していたため、「働く青年の教育」は初めてでした。きっかけは、博多青松高校の時にご一緒だった深野先生のお名前が懐かしかったことでしたが、他校の定時制高校の現状や先生方のご意見をうかがうことができて、本当に有意義な分科会でした。「生徒との話がキャッチボールではなくドッジボールになっていないか」という言葉に、自分自身をもう一度振り返っていこうと思いました。

（共同研究者）レポートを中心に論議を進めた。夜間定時制、単位制高校に通学する生徒が抱える課題の一つの「表現」として不登校について論議を深めることができた。その中で、生徒が学校に何を求めて登校しているのか、個々のケースを通して、共通理解を図ることができた。
また、閉課程をむかえる夜間定時制では、最後まで教育の質を落とさないよう、県教委と粘り強く交渉し、教員数の確保に取り組んだ実践も定通教育の根幹であるとを痛感した。

第16分科会　教育改革･条件整備

（参加者）組合って何だろう、と考え直す機会になったと思っています。これまでの組合の運動で勝ち取った「権利」は、すべての教職員に認められ、原則として享受されています。　若い人たちには、これまでの運動で得られた成果はともかく、身近な課題「超勤」等々について一緒に考えること等を通して、問題共有をはかり、組織拡大につなげていけるといいな、と考えました。働きやすい環境を創り出せるよう、ガンバりましょう。

（共同研究者）新卒者の病休の多さ、負担の多さ、教員不足など現場の先生方の大変さを身にしみて感じています。国などの対策が業務量減などの根本的な解決に繋がっていないこともあり、県行政からできることを考えていきたいと思います。特別支援学校の教室確保も重要な課題です。入札不調で、早良、宗像も開校延期が決まっていますが、その後の対応についても引き続きしっかり見ていきます。教育環境の整備に取りくんでいきます！

本部･専門部からのお知らせ

障害児教育部	11月26日（土）「インクルーシブ教育」学習会　開催
本部	12月23日（土）　14:00～　50歳代からの働き方学習会
実習教員部	2月12日（月･祝）「実習教員部独自研修会」
青年部	2月17日（土）～18（日）　学びと交流の旅（大分）
養護教員部	3月9日（土）わくわくthe談会

積極的に未加入者へ声かけし、実りある学びにしましょう！

高教組ホームページ、日々更新中です！

折々

副委員長　西岡　伸夫

高教組情報第7号をお届けします。皆さんがこれを手にされる頃には、今年の秋季確定闘争も終了しているはずです。その経緯や妥結内容は、「そくほう」や高教組情報の次号でお伝えしますが、少しでも良い報告ができるように、とりくんでいきたいと思います。

新しく高教組に加入された方がいらっしゃる分会を、執行委員がお訪ねしています。そこでどんなお話ができるのか、楽しみにしています。こういう困りごとがある、こんなことをもっと知りたい、この制度について説明して欲しいなどなど、支部や分会からのお声掛けを待っています。

教研の　余韻を胸に　仲間人は　何か祈るや　宮崎宮に